

第3期 瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会 第1回議事録

日時	平成26年9月25日(木) 14時から17時まで
場所	区役所5階大会議室A B
出席者	名和田氏、岡田氏、川口氏、辻村氏、山口氏、諸橋氏、奥津氏、網代氏、清水氏、福田氏、森谷氏、高橋氏、土居氏、岸本氏、杉野氏、米倉氏、大塚氏、伊藤氏、北井氏、中野氏、宮原氏、瀧澤氏、宮田氏、板坂氏 (24名)
欠席者	永嶋氏
内容	<p>1 開会のあいさつ</p> <p>藤澤福祉保健課長より 薬師寺区長あいさつ</p> <p>皆さんこんにちは、この懇談会は2ヵ年にわたる長丁場となるのでよろしくお願ひします。今、新聞では人口減少、高齢化が取り上げられているが、区役所では共助による地域課題の解決を基本にそれを行政が支援する体制を作っていくことが大事だと考えている。その際にこの地域福祉保健計画の地区別計画がひとつの重要な仕組みだと感じている。この1期5ヵ年の間に、それぞれの地域で何が達成できたのかが重要だと思っている。瀬谷区ではどの地区も熱心に計画に取り組んでいただき、区役所としては心強いことであるが課題がないわけではない。</p> <p>また、先日の全域懇談会で「地区別計画を作る指針があってもよい」という貴重な意見をいただき、その方向で準備をしている。皆様からは、それぞれの立場から忌憚のない意見をいただき瀬谷区の第3期の計画がより充実した形で策定できるようにお願ひしたい。私もできるだけ傍聴させていただきたくよろしくお願ひいたします。</p> <p>2 はじめに</p> <p>(1) 第3期瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会メンバー紹介・進行役選出</p> <p>策定懇談会名簿の順に従い事務局から紹介</p> <p>事務局より第1期の策定委員会から座長を務められている法政大学名和田先生に今後の進行をお願ひする旨提案があり、一同拍手で承認。</p> <p>議題</p> <p>3 瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会について</p> <p>(1) 第3期 瀬谷区地域福祉保健計画について(資料2 資料3)</p> <p>事務局からこれまでの第1期・2期の瀬谷区地域福祉保健計画の取組を踏まえ、第3期(平</p>

成 28～32 年度) に向けての意見交換を行い、それぞれの立場から全域計画に盛り込む課題等について、また全域計画と地区別計画の関係性を持ちながらそれぞれの計画を策定・推進することができるように地区別策定指針についても意見交換を行うことについて説明。

「横浜市地域福祉保健計画について」「瀬谷区地域福祉保健計画の概要」「事務局体制」「第 2 期計画の振り返り」(懇談会で評価された取組)(区民意識調査)について説明され、スケジュール案を説明。

◆懇談会のメンバーが置かれている立場と地域福祉保健計画の概要を説明していただいた。

質問も多々あるかと思うが議論を深める中で分かっていく部分もあるだろう。

福祉というとまだまだ狭い領域で捉えられることが多いが、地域福祉保健計画は広い意味で地域をどうつくるかにある。参加と協働による地域自治において、地域福祉保健計画が重要なツールになっていることが横浜市の大きな特徴である。その先頭に立っているのが瀬谷区であると思っている。それぞれの立場でどのようにしたら瀬谷区がよくなるか話していきたい。普段の活動の中から感じていることをぜひお話しいただきたい。

質問なし

(2) 全域計画について(資料 4)

事務局から全域計画について説明。

<質疑応答>

◆全域計画についてどういうことを盛り込むべきか、どういう方向性にするかについて、資料 4 2 全域計画の方向性について ①から⑤について意見はあるか。

◆瀬谷区の地域福祉保健計画は非常に先に進んでいるという印象。地区別計画を作ったのも早かったし地区の活動も活発。それでも課題はあるだろうが、個別の課題になるが、阿久和団地の調査にここ数年係わったが、自分達が困っていることを自分達で発信できるようにすることが基本だと思っている。

◆助けてほしいと言える力については、市計画の第 1 期でも話題になった大事なテーマ。地域でもあるが個人(障害などの方)と言える地域をつくるべきで、全区的な専門的支援、役所の支援が必要だと思っている。

◆地域福祉保健計画は今まで地域にスポットをあてていたのが福祉にスポットがあてられるようになり、今後は健康にスポットが当てられるように変わってきた。健康に力を入れることにより、第 3 期は大きく変わっていくという気がしている。

◆第 3 期に向かい、11 月 1 日から、「健康ウォークポイント事業」が始まり、5 万人の参加者を目標にしている。昨年一生懸命取り組んだが「健康ポイントラリー」は 8 千人だったので、今期は 5 万人にするように勢いがついていて。それをさらに、10 万人、20 万人、30 万人と地域から広がるように、ウォーキングを通じて健康になるような地域にしていきたい。

◆第 1 期は「地域福祉計画」という名称だったが、第 2 期では健康づくりの取組を盛り込み「地域福祉保健計画」と名称が変わった。

◆ここに書かれている「地区支援チーム」と「顔の見える関係づくり」の二つが重要だと思う。地区支援チームを計画の中に盛り込むのはよいが、各地区別計画を策定する段階から地区支援チームの力が必要である。地区支援チームは計画の中に盛り込むだけではなく、地域福祉保健

計画策定の体制の中に位置付ける必要がある。計画を策定する段階から一緒にやらなくてはいけないと思う。

「顔の見える関係づくり」が全体の元になるもので、何故必要かという、防災のために必要と受け止められがちだが、日頃、地域の共助の上でも「顔の見える関係」が重要なので、これと防災との関係を明らかにした方がよいと思う。まだ地域の中では防災は防災、見守りは見守りと分けているところが多いので、その辺をはっきり示した方がよい。

あわせて、一人暮らし高齢者の情報を民生委員は行政から提供を受けるが、その個人情報はどう地域で共有するか、それがなくてもいかに情報を入手したらよいか、防災と見守り合いをもう少しはっきりさせた方がよい。それを全域計画に盛り込んでもらおうとそれが指針となって地区別に反映できてくると思う。

◆事務局 資料にある計画策定体制の中に地区支援チームを入れたいと思う。

◆今後の全域計画として体制をどう改善していくかを考えていくべき。

◆事務局 今後の地区支援チームに何が足りないのかなど教えてもらいたい。

◆地域ケアプラザが事務局に入ったのも市内で初めてだろう。この10年間の中で、区社協はもちろん、地域ケアプラザへの信頼が益々深まったと感じて、そのような発展の方向性を提案してもらいたい。

ふたつ目の見守りと防災のことは私も興味を持っている。

情報共有の問題は、地域から何かあるか。事務局として何かあるか。

◆事務局 「顔の見える関係」と「防災」をもう少しはっきりさせていきたい。

名簿がなくても支えあいを行うことができるのが理想だが、都市部ではやはり名簿が必要だろう。地域で支援が必要な方の了承をもらって共有を進めていきたいが、体制等の議論をいただきたい。

◆このような会議は初めてだが、地区支援チームについて、イメージがはっきりしないので具体的にどのような活動をしてきたのか教えてもらいたい。

それと、若いお母さん方に「地域の防災訓練に参加したいか」と聞いたら、「参加したい」と答えるが、「実際に参加したか」となると実際は参加していない状況がある。

呼びかけはするが地域全体でもう少しお子さんを連れのお母さんが参加しやすい仕組みを考えたい。小学校には子育て層のつながりがあるが、小学校にあがる前のつながりが弱い。

④の支えあいでは解決できない課題ではないが、乳幼児を育てている方にそれがあると思われる。

◆事務局 地区支援チームの具体的な活動については、課長が1名、係長が3名から4名。具体的活動としては、地区の自治会町内会の定例会や地区社協の定例会や民生委員の定例会に出て、区の情報を伝えたり地区の状況を聞いたりしている。

地域防災拠点が15あり、そこで訓練の提案などを行っている。

25年度から「顔の見える関係づくりから始める地域の見守り防災事業」を地区の共通のテーマとして、区の基本的な考え方を説明したり、研修などを行っている。

地域で行われているイベントにチームリーダー、サブリーダーを中心に参加し、地区の方と顔の見える関係を築いている。

一律ではないが、このような活動を組み合わせて支援をしている。

- ◆単位自治会でも公園を利用して防災訓練を行っている、拠点でも児童・先生の参加をいただき、地域の方と保護者と訓練を行っている。

先を見越して若い方に防災の知識、地域の存在を再認識していただき、障害のある方の参加もいただき要援護者の受け入れ訓練に協力してもらっている。

その中で、若い保護者の関心も高まってきていると思う。

必死で参加してくださいと呼びかけをし、班長に努力をいただいているが、なかなか自分のこととして考えていただけていないのが残念。

- ◆乳幼児を抱えている世帯に地域の手が伸びないという点はいかがか、防災訓練は班を介して情報はいくのだろう。

- ◆瀬谷北部地区は瀬谷区が一番北のはずれであるが、9月7日雨で防災訓練は中止になった。全世帯に通知はするが乳幼児を抱えた方の参加は毎年少なく、高齢者が多い。今回小学校4年生が参加するということだったが、次回に期待したい。防災はできないが、減災の心構えを持つことは重要。おにぎり炊き出しで一人2個ずつ配るのが目標。障害の方への支援が課題。

- ◆「顔の見える関係づくり」が進行中で、日常の見守りは福祉で重要だと思って、住民にアンケートを実施し、現在集計しているところ。連合全体でのまとまりが難しい。特に、3割の方が町内会未加入であり、その方への対応が課題となっている。

地区支援チームの方がリード役を担ってくれていて感謝をしている。

- ◆地区社協の分科会が本日午前中に開催され、その中で各地区で現在取り組んでいる第2期地区別計画の振り返りの状況について情報交換をした。

今でも福祉について、例えば自治会に声をかけること等は「地区社協がやること」と言う人もいる。やはり、全域計画で区民にPRするのにその点が足りない。

対象者は全区民、健常、障害関係無く、子ども高齢こだわりなくとした時、それを推進するのは誰としたとき、それは皆さんがそれぞれに関心を持って計画を推進し、「良いまちをつくらう」というものだということが不足していた。

計画達成に向けてという福祉関係は地区社協となってしまったのかと感じた。

強調して絶えずそれを話していただきたい。

②地区別計画を支えるというところで、数年前に南瀬谷に活動拠点のモデルができたが、その後一向に進んでいない。出来ているところもあるが、出来ないところには、借り上げの補助等の支援も必要だと感じている。

地区支援チームの方に協力いただいております、背中を押してもらったりお尻を叩いてもらったりと有難い。それぞれのリーダーの方はその手加減の頃合いが難しく苦勞されているのだろう。

地域力推進担当課長にも地区の各活動によく協力してもらっている。

ただ、子育て支援の「いきいきせつやこ事業」等のような事業では、地区支援チームだけでなく子育ての所管課の方にも来ていただき活動を見ていただき、住民の声を聞いて貰えると嬉しい。

- ◆青少年指導員の代表で第2期から参加している。サラリーマンの殆どの方が地域福祉保健計画の取組を知らない。第3期ではこの広報活動をされに行い、計画に対する認識を広げてもらわ

ないといけない。

- ◆先ほどの意見の中で、福祉は地区社協と言われてしまう現状があるという話があったが、第3期計画の基本理念に関係してくるのではないかと。瀬谷区では第1期から計画の理念を「みんなでつくるみんなのしあわせ」としており、第3期もこれでよいのかという事務局の問いかけがあったが、まだ周知が足りないのなら、このままいくのがよいのかなと思ったが意見をいただきたい。

拠点については、地域福祉保健計画の身近な拠点について計画の中で触れられていないかと思う。

現役世代に計画を広めるということは、市計画でも重要視されており、「学校」や「企業」がひとつの代表的項目として第3期市計画では示されている。

- ◆学校が関われる事は何かと考えていた。つい最近も神戸の痛ましい事件があったが、学校から家に帰った後、地域の方が見てくれるとよい。学援隊、見守り隊をどの学校でもやっている、登下校の見守りは大きな取組。登下校に限らず、地域の子も達を地域の方がどのような目で見てくれているのか学校でも心配、それができていると学校側は安心。

子育て世代の親同士の連携力が弱まってきていると現場では感じる。

現場で何かあったとき、親御さんがどうしたらよいかわからない、その前に地域の中での関係力が弱まっていると感じる。

地域防災にしてもコミュニケーション、自分中心で十分という中、集まって何かやるのか難しい。それをどう切り崩していくかが課題。それが崩せば子育て支援にも繋がる。

- ◆若いお母さん方と地域の関係力が弱まっていると校長先生に聞いてショックである。

- ◆「地域の支え合いでは解決できないこと」とは具体的にはどのようなものか事例がききたい。主任児童員の立場からすると、地域福祉保健計画という高齢関係の取組が進んでいるイメージである。高齢者のサロンはいろいろあるので青少年の世代がつながる場、子育ての世代が身近な場で集れる場が多くあるとよい。

担い手として若い世代が求められているが、若い世代が中核になるのは難しいのではないかと。

「みんなでつくるみんなのしあわせ」ということを考えると、若い世代が意見を言える場、地域活動を知って貰える場を意図して作る事が必要ではないかと。

昨日の主任児童委員の意見交換会で、顔の見える関係が必要だという話が出た。個人情報を超える関係が必要となると思う。

中学校卒業までは誰か大人が係わり、情報が地域に繋がるが、不登校をしている中で中学を卒業してから家庭に引きこもりになっている子も少なくない。15歳以上への支援もこれから必要だと感じている。

- ◆ご質問があった、「地域の支え合いでは解決できないこと」について事務局の説明をお願いします。
- ◆事務局 地域の方が頑張っても関わりを拒否する方（行き先がつかめない、話してくれない）そこは公助として役所がやること。周囲から見ると明らかに困っていることでも、本人は困っているとは言わない。阿久和団地についてインタビューをやったが、周りはちょっと迷惑なんだけど…というところ。
- ◆地域に声をあげないのは理由がある。自分自身がそういう状況だと認識していない方、それで

もなんらかのつながりが生活をしていれば出来ると思っている。

個別訪問をしたが、一番気になったのは、外国籍である。質問しても状況がわからなかった。そういう方には色々な仕組みが必要だと感じる。ましてや瀬谷には外国籍の方が多い。

精神的な病気の方も生活はしており、コンビニに買い物に来る等どこかで接点があるはず。どなたが一番話をしているか等、周りの方の情報を集めながら何が出来るか考えていきたい。民生委員の方が困っている方の情報を得たい時どこに一番蓄積しているのかと思うと、以前は区役所だったが、今は地域ケアプラザもかなり係わってくれている。民生委員や主任児童委員を長くやっている方は結構知っているのだろう。

支援チームでそのようなことが話し合えればよいのかどのレベルがよいのかこれから話し合っていくと良いと思う。

◆情報が安定的にたまる場所が大事。

◆情報について民生委員から話をすると、私達が出かけても拒否される方がいる。実際の例では近所の方から電話がきて、身体の具合が悪くて起きることもできないということ。担当の民生委員と電話の方と4人で行ったら朝から何も食べてなくて脱水症状、水を飲ませたが、立てない状況。救急車を呼んだが、救急隊が行ったら行くのは嫌だという。そこへ娘さんから電話があり、お母さんが行くのを嫌だと言っていると伝えたら、「放っておいてください」と言う、救急隊も本人が拒否しているので1時間ほどいたが帰った。民生委員としてもそれ以上何もできず、あとは遠目で見ているしかなかったが、次の日、その方は福祉保健課に電話をかけ「民生委員に来て欲しい」と言われて再び行った。行って何をするかというとお話をするだけ。結局地域ケアプラザの職員に来て貰ったが病院に行くのはいやだというので状況は同じ。その後は、何も言ってこない。

情報の共有をどう図るか、拒否された方にどう寄り添っていくかが難しい。区役所でも地域ケアプラザでも困っている。

各地区に町内会には入っていない方が多くいるが民生委員はそのような方も見ないといけない。

地域では相談出来ないし、結果的に高齢支援担当と話をしなくてはいけない状況。

◆今の事例から、周りの地域の方の役割はあるが、やはり専門機関、公的機関が係わらなくてはいけないということ。そこにおいても地域の役割はゼロではないということ

◆現場の皆さんに心から敬意を表す。

障害関係の話で、先日、大塚氏が出席された「共同作業所連絡協議会」（略して協作連）の全国大会が横浜で開催された。全国から3500人が来た。「命のことづて」という映画があり、障害者が東日本大震災の時にどう大変だったか撮影されている。障害がある方で亡くなった方は健常者の倍、とくに目や耳が不自由な方が特に大変だったということ。

「よこはま笑顔プラン」をみるとP4に地域福祉保健計画と関連する分野としていくつかある。

また、地域福祉保健計画関係の4つのプランがあり、スポーツ文化的活動、住宅、人権、医療、就労、雇用、教育、環境、まちづくり、防犯防災、多文化共生、企業NPO連携、男女共同参画、交通 に○がある。

学校の意見にも関係あるが、地域福祉保健計画を作るのに、瀬谷駅の南口の都市計画や三ツ

境駅の南側の厚木街道を広げる、来年の6月には上瀬谷の基地が全面的に戻ってくる等あるが、そのようものとの関係で、役所の中で事前に連絡を取ることがあるのか。

都市計画を立てる上に防災拠点を作るなど私たちは考えるが行政の考えはどうか。

- ◆公に係わる所だと思うが区役所の説明はあるか。
- ◆事務局 通信基地の返還後の利用の視点にも福祉の視点は入り、計画を立てる段階から情報共有の場はあり、地域の要望、個別の所管団体からの要望等の情報は得る。都市マスタープランを区として策定する際に事業局にももの申す形になっている。
- ◆区の中で情報共有はできている。障害理解の報告があったが、障害理解という言葉さえまだ市民権は得ていない状況。障害の問題は今後強く地域福祉保健計画の中で取り組んでいかななくてはいけない。
- ◆医師会の副会長をやっている。項目が多岐にわたっているが認知症、在宅、虐待、健診事業等、行政の方と進めている内容とこの計画とどのように絡めていけばよいのかがこれからの課題。
健康づくりについては、健診は瀬谷区を受診率が市内でも最低か後ろから2番目と低い。啓発活動が足りないのか。認知症に関しては、体制は進んでいないがネットワークづくりは始まっている。在宅、災害医療等、自治体でも進めているがこの懇談会とつながってより広く取り組みたい。
- ◆医師会から力強い言葉ありがとうございます。
- ◆歯科医師会として参加している。歯科の専門分野としてどのように地域に関わっていくか考えていきたい。歯の健康の啓発や健康寿命を延ばすことを進めていくような気持ちを持って策定懇談会に参加していきたい。
- ◆薬剤師医師会から初参加。どこに絡んでいけるか迷うが、健康寿命を延ばすには、「セルフメディケーション」といって薬局は処方箋を持って来なくても色々相談してもらってよし、薬剤師会としては、地域の中での相談できる場になりたいと思っている。
弱い方が係わる職場として、認知症を少しだけ感じる方など、どうしていったらよいか等、地域の見守りの中に活かしていきたいと考えている。
学校薬剤師として、小中高校にも入っているので、より実践として参加できることもあるかもしれない。
- ◆薬局が地域の小売店のひとつ。金沢区の「さくら茶屋にししば」薬局とサロンとカフェの連携をしている。

4 地区別計画策定指針について（資料5）

事務局より地区別計画策定指針について説明がされた。

- ◆事務局 指針という言葉についても行政からの押しつけにならないような何か適切な言葉があったら提案いただきたい。

<質疑応答>

- ◆指針も盛り込む内容として地域で活動していて必要だと思われる事など話していただきたい。
- ◆せや活動ホームの仕事がら、障害者の思いを踏まえた発言をしたい。
障害者の権利条約ができ、平等について一つ。悲しいことに、阿久和西にある看板を見ている

障害者が悲しい表情をする。「みんなで作るみんなのしあわせ」といった時に「ここに来るな」と言われてしまうことについて。現状、そのままになっているおり、解決ができていないことについて深刻に受け止めている。

瀬谷区民で障害を持っている高校生は38名（他区に通っている子も含めて）、就労されているのは2割で残りは福祉的就労（就労に近い）残りは事業所。

障害者は横浜市内で700人いて、数年後には800人になる、少子化でも障害児は増えている。私の事業所でも数名しか空きが無い状況。他県では学校の空き教室を利用した取組が行われている。

今後は連携をもった建物の利用、障害に特化しなくても高齢の方や、認知症の方が安全に来られる場など、行政の縦割りを越えた予算の使い方ができるとよい。

三ツ境養護学校で重度の障害の7名の生徒は通学できないため訪問教育を受けているが、卒業すると訪問教育がなくなり、新たなつながりがなくなってしまう。地域で考えていければという思いがある。

通院をすることができない方、車がない、車を呼べない、医療的な面で科の連携をどう考えていけるか、在宅医療を単科ではなく、皮膚科、歯医者さんとの連携をまちの中で作っていいのか、かなり訪問診療は広がっているがネットワークとして地域に根ざしていれば支えになると考えている。

- ◆瀬谷区の地区別計画で「障害と外国籍のことが出なかったらどうしよう」と心配していたが、地区別計画でも取り上げているので、これから進化させていけるとよいと思う。

サロンも高齢者だけでなく、「常設のサロン」「誰でも来られるサロン」等開いている所もあるので広げていきたい。

- ◆地域福祉保健計画の考え方の基本理念の中で、福祉と保健だけだという感じがし、「福祉は社協」「保健は所管課」ではなく、地域福祉保健計画は地域づくり、まちづくり、と言う視点、方向性の中に、その文言を入れてもらいたい。大きいスタンスで捉えていくことが必要だと思う。

- ◆それは是非、指針の中に盛り込んでほしい。

- ◆障害施設の反対の動きがあることに関連して、瀬谷区に住んでいる人がだれもが平等に暮らしていくために、障害や認知症の理解が地域の人に必要。

先日、私の自治会内に障害者のグループホームを建設したいという話があり、是非かなえられるようにと自治会に話をした。

むしろ、拒否するという考えより、是非一緒に生活していただき、祭りや運動会に参加してもらい、災害、火災発生時に一緒に協力出来る顔の見える関係を作ってもらいたいと多くの会員から話があった。

就労の場、職場の提供、作業所で作られた製品をいかに地域で活用するかなど、計画の中に盛り込んでいただきたい。

人材発掘、育成について、森谷氏が言ったように若い方々の出番を作るのは私達の役目、子ども会に子どもを対象とした「いきいきせやっこ事業」「夏祭り」のある部分を担って貰うなど、あなた方が大事、担って貰いたいというやりとりの中でとてもよい関係ができていますので努めてその機会を増やし、呼びかけて話をさせて貰いたいと思っています。

P T Aでも防災拠点、夏祭り、いきいきせやっこ事業など子どもさんが関係した事業に重要な立場で担って貰っている。

④の指針についての考え方はマニュアルを提供するのではないという話、確かに地区毎に歴史的な違い、活動の違いがあるが、もうひとつ踏み込むとアドバイスが欲しいという地区もある、組織ひとつ作る時にどんな人が入ればよい等とアドバイスをもらいたいところもあるので、そんなことも含めて指針にいられてもらいたい。

◆スポーツ推進委員として活動しているが、皆さんの話に合点したり、始めて聞いて驚くこともある。

第3期の市地域福祉保健計画で「健康」が取りあげられるようになった。まだ地域福祉保健計画と連携した事業は行っていないが、懇談会のメンバーに加わることができ感謝したい。

この計画の中で、私自身がみて「人材発掘」「人材育成」「健康づくり」を考える上、市の定例会でも話しているが、役所の縦割り、市民局、健康福祉局も福祉保健センターだけでなく、地域振興課にも情報を流して、予算の関係もあるだろうが、瀬谷区の中で横の連携をとれる何かを考えてもらいたい。

学校関係で、小中学校、地元の隼人高校に出向いて校長先生とコミュニケーションをとらしてもらっている。食の問題等を皆さんに周知できるように、若い方を計画の中に入れられるようなテーマなど設定し計画の中で利用出来ないかと考えた。

この会議のメンバーの方の横の連携もとって力を出せば計画の中身が濃くなり、区民の健康、福祉がうまくいくと思う。

◆食育の関係は、地区別計画でも活かしていけるだろう。

市計画策定委員会には人数の制限があり、スポーツ推進委員は入っていないが瀬谷区では入ってもらっている。市民局も地域福祉保健計画には興味を持ってもらっているのが横浜市のよいところ。地域のところも意外と縦割りの所があるので、その辺も検討したい。

◆かねがね「地域福祉保健計画」は漢字がいっぱい堅いと感じていた。過不足がなく文句の付けどころのない名前だがもう少し柔らかい表現があればよいと思っており、「穏やかな暮らしのお裾分けプロジェクト」等、「福祉」というと堅いが「暮らし」と言い換えられると思う。日常生活を送っている市民がとっつきやすいネーミングを皆で練ってみたいと思っている。

もう一点は人材に関して、「横浜地域づくり大学校」を開設して4年たち、卒業生が大勢出たが、地域で集まると他区の良い刺激があり、自分の町のことになるとう参考にし難いという要望があり、現在区版で6区依頼を受けている。「泉区地域づくり大学校」「戸塚区地域づくり大学校」などがあるが、瀬谷区は自前でやるからいらぬと言われ大変残念であるが自前でやるそうなので期待をしている。

この「地域づくり大学校」の募集要項には、今の団体のトップの方ではなく、「次世代を頼みたいと思う方が3人揃って来てください」としている。一人では地域に帰ると上の人につぶされてしまう。「地域づくり」は「まちづくり」「人材作り」、福祉だけでなく皆で褒めあって励ましあって尊敬しあってノウハウを伝授しながら若い方につないでいければよいと思っている。

人材発掘・育成に具体的に取り組む時がもう来ていると思う。

◆最初の愛称の件は後で時間があつたら図りたい件である。全市的には愛称があることが多いが、

瀬谷区の計画にはキャラクターはあるが愛称はない。

- ◆ボランティアの関係で来ているが、高齢の方が多くこれからどうやって募っていくかが課題。皆様のご指導をお願いしたい。
- ◆地区別計画にも人材発掘や若返り等の課題も議論すべきだと思う。
- ◆私の地区ではいろいろな事業が展開しているが、それはもともと地域福祉保健計画の中から生まれた事業だが、地域のみなさんはそのことを知らない。地域福祉保健計画は基にあるもので、特に地域福祉保健計画という言葉が知られてなくても活動が展開されていけばよい。地域福祉保健計画という名称にあまりこだわらなくてもよいことを指針の中に明記しておくとうい。
- また、若手ボランティアがいないと危惧しているが、若手がボランティアをすること自体難しく時間がある人がやればよい。若い人の意見を聞く場を設け、若い人を取り入れるのではなく意見を聞ければよく、やがて時間が出来たときに地域に戻る道筋だけつけてあげればよい。その辺のところも地区別計画の指針の中に書かれていると安心だと思う。
- ◆区社協が朝ご飯を食べてこない子がいるという調査結果から、阿久和小学校で材料はフードバンクや地域から集めて「大カレーパーティ」を仕掛けたところ、在校生 200 名中 100 名が参加。1 1 時からの開催なのに 9 時から集まりあつという間に完食。カレーを作った地域の人が素晴らしく、皆、分業でできることを積極的にやってくれた。地域福祉保健計画の説明をしなくても、「これができる人」という集め方でよく、ボランティアではなく自分で楽しむ「ほどよいおせっかい」「お裾分け」がし合っているからよいまちだと思う。地区社協も PTA も協力してくれた素晴らしい話であった。
- ◆子育て支援拠点では、若い親同士がつながる企画をここ数年やってきた。その中で親同士がつながる力が弱いと最初は思ったが、壁があるだけで穴をあけてあげるとつながり、力を発揮してくれる。現代は子育てを積極的にやる父親も多いので、子育てという切り口で現役パパが戻ってくるとママも来る。地域に暮らしている人が戻れる仕組みやきっかけをつくるのが大事。
- もう一点は、地域福祉保健計画の内容が豊富で、見守りのところでは、「防災の見守り」と「日々の見守り」と同じ言葉が使われているので混乱する。「防災」「健康」「福祉」「地域づくり」位の地域福祉保健計画のカテゴリーがある。
- 地区別計画、全域計画でもカテゴリーは共通にしておいた方がよい。それは 4 意見交換項目の「全地区に共通する地域課題」と「地域の課題やニーズの把握」についてはある程度領域があった方が作りやすい。上の事に関しては、地域の特性やこれまでできている繋がり等、方法として上の 4 つは横軸で切っていくという考え方をすれば、汎用性のある地域計画ができるのではないかな。
- ◆特別養護老人ホームの老人保健施設が瀬谷区内には 10 ヶ所程度ある。今、地域包括ケアシステムを勉強しているが、施設としては何ができるか悩んでいる。施設数は他区より少ない。施設をもっと使えるようにしていただきたい。
- 人材育成は施設でも難しい。職員は皆頑張っている。褒めてあげないと育たない。地域に置き換えてみたとき、子育て、親の介護、老老介護、認知症の介護、生活困難者等、皆頑張っている。そこを地域で褒めていきながらその人たちが抱えている課題を掘り起こし、皆で力をあわせていくことができるのではないかな。頑張っている人を褒める機会が地域では少ない。

	<p>◆地区別計画では地区にある施設を使うようにしていただきたい。全域計画のものも地区別計画のものもあったが事務局で切り分けてほしい。本日は皆さんの意見を聞き、施設ももっと頑張らなくてはいけないと感じた。</p> <p>◆人材発掘・育成は、若い人がいないというのは時代背景もあり共働き世帯が多い。生活の大変さもあるが町内会で地域の仕事を頼むと忙しくてできないと言われる。依頼したら時給を聞かれた。高齢者給食はボランティアでやっている。学童保育保護者会では、親御さんがカレーパーティをやりたいということで皆、来て作った。潜在的な力はあるので、先々期待できると思う。</p> <p>計画を作るのに、地域コミュニティを利用して作成していかないといけない。</p> <p>地域福祉保健計画＝地域コミュニティという輪を広げて作りたい。連合と地区社協が連携がとれない、というのは自分の地区。連合自治会では「福祉と言うと地区社協の仕事」と言われそこで押し問答が始まり地区社協と連合は仲が悪いとみられる。それぞれの理解が少ないためにそうなった。そこで地域コミュニティを考えて、これからは連合と地区社協だけでなく愛護会等も含めた地域福祉保健計画をやっていかなければならないと思う。</p> <p>◆地区別計画は地域づくりそのものだと言える。</p> <p>5. その他</p> <p>◆事務局 愛称は11月がリミットになるが手続きもあるので次回検討していただく。本日の意見を全域・地区別にまとめて整理して提示していきたい。</p>
次回	平成26年11月6日 (木) 14時～16時 二ツ橋地域ケアプラザ 多目的室